

朝の礼拝

聖書 ローマの信徒への手紙 8章28節 (新約聖書285頁)

神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということを、わたしたちは知っています。

召された道

なぜパンデミックの時に生まれてきたのか、どうして私はウクライナに生まれたのか、それは例外なことではありません。誰もが自分が生まれる時、生まれる場所を選ぶことはできません。だからどんな小さないのちにも愛されている喜びが必要なのです。

この手紙を書いたパウロはユダヤ教の指導者で、キリスト教の迫害者でした。キリスト教を迫害することが神様の栄光だと信じていました。ところがキリストと出会い、イエスをキリストと伝えることが神様の喜びだと人生を180度ひっくり返されました。

それは迫害される側に立たされることでした。ところが晩年、自分は艱難、苦しみ、危険に遭ったが、どれも神様の愛から自分を離すことはできなかった、自分は母の胎にいる時から選ばれ、召されていたのだと感謝して告白しています。

そして艱難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望さえも生んだとも言っています。人生は自分の意思や力だけでなく、共に困難を乗り越えながら、神様に選ばれ、愛されていると喜び、感謝する道だと伝えてくれています。

(しばらく黙祷しましょう)

わたしたちを選び、愛される主よ、あなたはわたしたちに英和女学院という学び舎を与えてくださいました。どうか道に迷い、不安で心細い時にも、あなたが共にいて愛されていると喜び感謝できる道を歩ませてください。どうか今日一日もすべてをあなたに委ね、よき学びのうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン